

有尾目 (サンショウウオ目) サンショウウオ科

カスミサンショウウオ

Hynobius nebulosus (Schlegel, 1838)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵7

【選定理由】

平野部の低山縁地から山地の渓流域にかけて広範囲に生息しており、近年沿岸部における道路建設、整備事業等により生息地が急ピッチに減少、この地域における個体数の激減が進行していることから絶滅が危惧される。

【概要】

全長は7-11cm前後で他のサンショウウオにくらべ小型である。体色は黄褐色、暗褐色、灰褐色と地域によって変異が見られる。低山に生息する低地型と標高の高い山地に見られる高地型があり、低地型は尾の上下に黄色の条線が見られるが高地型は不明瞭である。産卵期は12月から3月頃までと長く、低地型と高地型で時期が異なる。卵嚢は1対

でバナナ状または小さく巻いたひも状で透明である。

【県内での生息地域・生息環境】

低地型は県内全域の標高30m前後の山縁部の低山地を中心に見られ、高地型は中山間地の里地から中国山脈の森林域にかけての標高400m以上を中心として生息している。産卵は沿岸部では山縁部側の湧水地や流れのゆるやかな小川等、高地型は湧水地の水溜まり等で行われるが、産卵時期以外は山地の湿地部に生息している。

【存続を脅かす原因】

沿岸部低山地の道路建設、宅地造成等の環境整備や中山間地の環境整備による森林伐採、道路建設等による産卵場所や生息地の消失。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	溪流	森林	草原	農地	河川	湖沼	溪流	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	◎						◎		○			◎	◎		○			◎				

有尾目 (サンショウウオ目) サンショウウオ科

ブチサンショウウオ

Hynobius naevius (Schlegel, 1838)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵7

【選定理由】

本種は溪流性で、標高の比較的高い森林地に多く見られる。道路建設や公園整備などの工事による生息環境の悪化や生息地の狭小化や個体数の減少。

【概要】

全長は8-15cmほどで、多くは地色が青みを帯びた暗褐色で白色ないし灰白色の不規則な斑紋を持っている。腹面にも地衣状斑がある。産卵は伏流水中に行い、丸く巻いた透明でやや青みを帯びた卵嚢の中に、10~20個ほどの卵を産む。幼生は爪が無いが、流水性であり越冬す

る事がある。カスミサンショウウオの高地型に外観はよく似る。

【県内での生息地域・生息環境】

里地から山地にかけて県内の分布は広い。溪流付近の森林に多く見られる。

【存続を脅かす原因】

森林伐採や溪流の水を涸れさせてしまうような林道建設、局地的な自然災害による復旧工事、防災工事等。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	溪流	森林	草原	農地	河川	湖沼	溪流	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	◎		◎				◎					◎										

有尾目 (サンショウウオ目) サンショウウオ科

ヒダサンショウウオ

Hynobius kimurae Dunn, 1923

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵7

【選定理由】

比較的高い溪流付近に生息地が限られている。山林伐採などによって生息環境が悪化することで生息地が狭小化し、個体数が減少してきている。

【概要】

全長は8-17cm、尾は棒状で、体色は全身が褐色で腹側には斑紋がなく、背側に不規則な形の橙黄色の斑紋がある。産卵は溪流の岩の下に丈夫な膜に包まれた卵塊を、1-3月にかけて産む。幼生は溪流にすみ、平衡桿が無いことから、流水性のサンショウウオである事が分かる。

【県内での生息地域・生息環境】

県内では山地に生息している。標高が高いところに多いと思われるが、低くても北側の斜面など気温や水温等の条件によっては生息しており、分布域も広い。

【存続を脅かす原因】

標高の低い溪流から高い渓谷にかけて発見例があることから、森林伐採や溪流の水を涸れさせてしまうような林道建設、局地的な自然災害による復旧工事、防災工事等。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	溪流	森林	草原	農地	河川	湖沼	溪流	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		◎				◎					◎										

両生類 爬虫類

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

有尾目（サンショウウオ目）サンショウウオ科

ハコネサンショウウオ

Onychodactylus japonicus (Houttuyn, 1782)

【選定理由】

中国山地の標高の高い森林地の渓流域に生息するが、生息環境の悪化によって生息域が狭小化し、個体数も減少している。

【概要】

全長は11-19cmほどでスマートな体型をしているので、他の小型サンショウウオよりも小さく見える。体色は紫褐色で背側の中央部から尾の先まで朱色の縦帯があり、小さな斑紋が背側に見られる。産卵期は5-6月、半透明な丈夫な卵嚢を流水中の岩に付着させる。幼生は3年以上かけて成体になる。溪流性のため足指に爪を

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：-

環境省：-

持っている。幼生期は外鰓により呼吸するが、成体は肺が発達していないため、主として皮膚呼吸に頼る。

【県内での生息地域・生息環境】

自然度の高い山地の源流付近の森林の溪流に見られる。水質が清楚な溪流に産卵し、幼生は溪流域を生育地として成長する。

【存続を脅かす原因】

生息域および産卵域の森林伐採や溪流の水を涸れさせてしまうような林道建設、局地的な自然災害による復旧工事、防災工事等。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		◎																	

無尾目（カエル目）アカガエル科

タゴガエル

Rana tagoi tagoi Okada, 1928

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：-

環境省：-

【選定理由】

本種は標高の高い林床域や溪流域に多く生息しており、ニホンアカガエルやヤマアカガエルなどと比べて、生息域が狭いため、環境の変化による影響を受けやすい。山間部の林道や農道などの道路工事によって、生息地が減少してきている。

【概要】

体長はメスで6cm、オスは5-6cmほどで、体色は背側が黒褐色から赤茶色、腹側は雲斑状を呈している。繁殖期は3-7月で、溪流沿いの伏流水や岩の下などに、

卵黄が豊富な白く大型の卵を少数産みつける。

【県内での生息地域・生息環境】

県内に広く分布している。本種は他のアカガエルとは異なり、標高の高い溪流域に多く生息して繁殖を行っており、山地では水田近くまで降りてきていることもある。

【存続を脅かす原因】

生息域および産卵場所となる領域の森林伐採、水田地の道路建設などによる環境の悪化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	◎		○				◎													

無尾目（カエル目）アカガエル科

オキタゴガエル

Rana tagoi okiensis Daito, 1969

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵7

【選定理由】

分布域の一部で生息条件が悪化しているため。具体的には溪流保全工（護岸工・落差工事）をはじめとする環境破壊の影響を考慮した。

【概要】

成体は背側隆起が鼓膜の後方で曲がり、前後指趾端が膨らむほか、後肢の水かきの発達が悪い。吻端は円く終わり、喉部に多数の黒色細密斑紋を有する。全長は53mmに達する。溪流近傍の冷涼多湿な林床に隠遁し、土壤動物等を捕食する。繁殖期は早春から春暖季までの間で、溪流沿いの伏流水中に産卵する。卵塊は球状である。卵

は径がやや大きく卵黄に富む。水中で卵黄を消費する幼生期間は黒色素が少ないほか、口器が小さくて尾がかなり長い。日本固有種のタゴガエルの隠岐産亜種である。

【県内での生息地域・生息環境】

島後および西ノ島の、低地帯および山地帯に生息する。各地の環境は天然林、または中低木や草本を有する一部の人工林に覆われた谷間で清冽な流水を有する。

【存続を脅かす原因】

砂防施設、森林皆伐、道路建設、ダム開発および河川改修。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	◎				◎													

両生類・爬虫類

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

無尾目（カエル目）アオガエル科

モリアオガエル

Rhacophorus arboreus (Okada et Kawano, 1924)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

沿岸部における道路建設等の都市整備によって、産卵に適した湖沼が減少していることから、個体数の減少がある。

【概要】

体長はメスで9 cm、オスで7 cm、体色は背側で緑色、腹側は薄黄色をしているが、場合により青緑色から灰褐色まで変化する。手足には吸盤が付いており、コナラ、ミズナラ、ブナなどの広葉樹の樹上で生活するのに都合が良い。産卵は5～7月にかけて淡黄色の泡に包まれた

卵塊を、池や水田などの水面に張り出した樹木の小枝に産みつける。

【県内での生息地域・生息環境】

平野部から里地、山地にかけて、県内では比較的広い範囲に分布しており、条件の良い産卵地では数十個の卵塊が確認されている。

【存続を脅かす原因】

平地における土地造成、ほ場整備や産卵場所である池沼の公園整備などによる環境の悪化。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○				◎					○								

無尾目（カエル目）アオガエル科

カジカガエル

Buergeria buergeri (Temminck et Schlegel, 1838)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

自然度の高い清澄な河川を生息域としているため、河川の汚染度を測る指標動物になる。生息環境の悪化による生息地の減少傾向がある。

【概要】

体長はメスで7 cm、オスは4 cmで、体型は平べったく、背側が灰褐色で黒褐色の斑点や縞模様があり、腹側は灰白色である。繁殖期は5～8月頃にオスの鳴き声が聞こえ、産卵は6～7月にかけて行われる。

【県内での生息地域・生息環境】

出雲市の猪目川や鱒淵寺の付近では、地元の小学生が定期的に観察・研究している事は有名だが、県内全域の山地の清流域や溪流に広く分布している。

【存続を脅かす原因】

中山間地を流れる河川における水質汚濁や河川改修工事による生息環境の悪化。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	溪流	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	◎				○		○				◎					○					

トカゲ目ナミヘビ科

ジムグリ

Elaphe conspicillata (Boie, 1826)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

高温が苦手で、おもに山地の森林域に生息しているので生息域が限られている。林道などの道路工事や開発などによって、生息地である森林地が減少してきていると思われる。

【概要】

全長は70–100cmで、背面は赤茶色の地に黒褐色の斑点が散在し、腹面には黒い角ばった市松模様が見られる。森林性で地中の穴に潜りやすく、やや低温を好むことから、夏の高温には弱い。8月ごろに孵化した幼蛇は、体

色が成蛇よりも鮮やかである。

【県内での生息地域・生息環境】

県内では、中国山地を中心とした山地や里地に生息しているが、目撃例が意外と少なく、移動範囲が狭く、ごく限られた領域に生息していると思われる。

【存続を脅かす原因】

里地の土地開発および山地における森林伐採、林道建設などによる森林環境の悪化、および餌となる生物の減少。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○	○			◎													

両生類・爬虫類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

トカゲ目ナミヘビ科

ヒバカリ

Natrix vibakari (Boie, 1826)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

おもに山地やその周辺の水田などで普通に見られる種であったが、最近では減少してきている。また、水田や山地などの環境の変化によって、餌となる動物が減少してきていることから、本種の減少も多大に考えられる。

【概要】

全長が40–60cmの小型のヘビで、背面は褐色または茶褐色、口角から頸部にかけて斜めに淡黄色の帯が入る。腹面は黄白色で、その両端には暗色の点刻がある。おもにカエルやオタマジャクシ、ドジョウなどの小魚、ミミズを食べており、森林や草原、水田や湿地などで生息し

ている。

【県内での生息地域・生息環境】

県内には広く分布しており、山地付近の水場には餌を食べに来た個体を容易に見つける事が出来たが、最近では土地開発や道路工事などで生息環境が変化し、個体数が減ってきていると思われる。

【存続を脅かす原因】

里地から山地にかけての土地開発および山地における森林伐採、林道建設などによる環境の悪化、および餌となる生物の減少。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○	○			○	○	◎											

トカゲ目ヘビ科

シロマダラ

Dinodon orientalis (Hilgendorf, 1880)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

写真口絵7

【選定理由】

全国的に個体数は少ない種で、さまざまな土地開発などによる影響を強く受け、生息域の環境悪化によって、県内でも個体数が減少してきている。

【概要】

全長は30–70cmと小型のヘビで、背面は灰色もしくは白褐色で黒い黄帯がバンド状にはいる。夜行性で、トカゲやヘビなどをおもに食べる。捕らえようとすると威嚇した後に擬死を行うことが特徴的である。活動する時間帯は狭いが、山地から平地まで、さまざまな環境に生息

している。

【県内での生息地域・生息環境】

県内では隠岐（島後）をはじめとして、平野部から里地、山地まで広く分布していると思われるが、比較的個体数は少ないことから、目撃報告は少ない。

【存続を脅かす原因】

住宅地周囲のコンクリート化やアスファルト化、ほ場整備、道路建設、公園整備などによる生息域の環境悪化、および餌となる生物の減少。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○	○			◎	○	◎			○	○	○						

トカゲ目ナミヘビ科

タカチホヘビ

Achalina spinalis Peters, 1869

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

全国的に個体数は少ない種で、土地開発などによる生息域の環境の変化を受けやすく、県内での分布も減少してきている。

【概要】

全長は30–60cmと小型で、幼蛇は全身が黒っぽく、成熟すると褐色から紫がかかった褐色となる。背中線上の黒いラインがはっきりと尾端まで入っている。夜行性でジムグリと同様に地中を這い、ミミズをおもに食べている。

【県内での生息地域・生息環境】

県内は、山地の広い範囲で生息していると思われるが、個体数は少なく、夜行性で地中生活する特異な習性のため人の目に触れる機会は少なく、不明な点が多い。

【存続を脅かす原因】

森林伐採や溪流の水を涸れさせてしまうような林道建設、局地的な自然災害による復旧工事、防災工事等による生息域の環境悪化、および餌となる生物の減少。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		◎	○			◎	○												